

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立第五葛西小学校

校長名 田中 雅生 (公印)

名称: 総合的な学習の時間

学校の教育目標	深く考える子ども すすんでやりぬく子ども 仲良く助け合う子ども 体をじょうぶにする子ども
----------------	-------------------------------------------------

国が示す総合的な学習の時間の目標	
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>	

学校の総合的な学習の時間の目標	
<p>中学年 ・活動したいことに興味・関心をもって取り組む。 ・資料を使い、自分なりに表現する。</p> <p>高学年 ・自ら課題を見つけ、解決方法を工夫し、伝える相手を意識して表現しようとする。 ・総合的な学習の時間を通して得たことを、自分の生活に活かそうとする。</p>	

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
地域の公園の施設や伝統文化、歴史に関する情報を理解している。	友達と協力して、調べ学習を行ったり、地域や農家の人に話を聞いたりしながら、地域の生活や課題を理解する。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
体験したことをもとに課題を見出し、必要な情報を集め整理分析し、相手や目的に応じて表現方法を選択する。	自ら設定した課題に対し、体験を通して福祉や地域に関する知識・技能を習得し、それらを活用して自己表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
多様な立場や他者の存在を受け入れ、障害のある方と共生していくことについて自分の生活とつなげて考えている。	多様な文化や他者の存在を受け入れ、多様な他者と共生していくことについて自分の生活とつなげて考えている。

内容	学習対象	学習事項
第3学年	<p>【地域や学校の特色に応じた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松菜栽培の歴史や文化 ・行船公園について 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や伝統のもつ特徴 ・地域の文化や伝統の継承に力を注ぐ人々の思い
第4学年	<p>【横断的・総合的な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク 車椅子体験・講和 ・バリアフリーの在り方・点字を使う人々・地域安全マップ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・目や足の不自由な方のくらしと支援 ・地域と自分たちの生活との関わり ・バリアフリーの意義や必要性
第5学年	<p>【児童の興味・関心に基づく課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りの苦労や工夫と生活の発展 ・実のなる木公園について 	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えから稲刈り・わらの利用までの米づくりの苦労と工夫 ・果樹栽培と地域との関わり
第6学年	<p>【地域や学校の特色に応じた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設こどもで生活する人々 ・ポイ捨てや防災などの地域課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の福祉の在り方、自分たちができる取り組み ・よりよい地域や課題解決のための取り組み

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<p>3年 伝統文化・地域</p> <p>4年 福祉・地域・情報</p> <p>5・6年 環境・福祉・地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を駆使する体験活動の重視 ・個に応じた指導の工夫 ・教科との関連的な指導の重視 ・言語活動による体験の意味 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立 ・地域教育力の人材バンクへの登録と効果運用 ・カリキュラム管理室を拠点とした情報の集積と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人内評価の重視 ・指導と評価の一体化の充実 ・学期末・学年末における指導計画の評価の実施